

学校教育目標	「学びあい 認め合い 高めあい」					
	人、自然、文化など、さまざまなふれあいを通して、すこやかな心と体を育てます。(徳・体) 自分の思いや考えを大切に、生き生きと豊かに表現する力を育みます。(知・公) 互いに協力しあい、学び高めあう中で、自ら課題を追究する生き方を支援します。(知・開)					
学校概要	創立 38 周年	学校長 松浦 良彦	副校長 清水 博	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 人		主な関係校: 荏田南小学校・荏田東第一小学校・つづきの丘小学校・荏田小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	荏田南中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自分づくりに関する力」 ○夢や希望をもち、自分を高めるため、課題解決する力○多様性を認め、伝え合い、考えを深化させる力○自己実現を目指し、地域や社会とつながる力	荏田南小 荏田東第一小 つづきの丘小	お互いの違いを認め合い、自分を高め、人と関わり、つながる地域の子 ・小学校、中学校で小中学校で共通して取り組めるテーマを設定して小中各1回、年間2回の授業研を行う。 ・年3回のブロック小中総務会で、ブロックとしての取り組みが有効に行われるよう検証と計画を行う。 ・児童生徒指導や特別支援教育に関する情報交換を実施する。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習や集団生活の中で自己を見つめ、伸ばし、生かす力を育みます。 命の大切さや健康・安全についての学習を進め、知識が生活にいかされるよう取り組みます。 学ぶ意欲や喜びを大切に、課題に気づき、追究し、発表する場を多くします。 学び合いの場を通して、自他の良さを認めあい、高めあう学習を工夫します。 地域の人やものと主体的にかかわり、地域とともに活動する生徒を育みます。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	3年間を見通した道徳の授業展開および評価の在り方について研修を進めていく。生徒会、生活委員会によるいじめ問題への啓発活動を通して、他人への思いやりの心を育てる。特に、生徒の主体的な活動に重点を置き、思いやりの心を醸成する。地域の行事への参加を通し、「思いやり・助け合い」の心を育てる。
担当 人権教育・道徳	
健やかな体	新体力テストの結果をもとに、一人ひとりが自分の体力を知り、体力向上に向けての目標を定め実践する。また、「食育」「喫煙防止」「薬乱防止」などについての学習を実施し健全な体の育成を目指す。SSW, SC等との連携のもとカウンセリングをさらに充実させ心の健康を維持向上させる。
担当 保健安全指導部	
生きてはたらく知	年次研修やメンター研修などに、経験年数に拘わらず多くの職員で臨み、主体的・対話的で深い学びを強く意識した授業づくりに取り組む。教科学習等で身に付けた知識を、行事等様々な場面において生徒が工夫し考えるよう意図的な運営を行う。
担当 学習指導部	
自分づくり・キャリア教育	引き続き、1年の職業講話、2年の職場体験、3年で地域の方を面接官とした模擬面接等を地域・保護者の協力のもと充実させ、3年間の3年間の見通しと系統性を持って実施する。キャリアパスポートを活用し、これまでの活動をしっかり活用、蓄積するなど、自分づくり教育を定着させる。
担当 総合・進路	
特別支援教育	特別支援コーディネーターを中心にサポートルームの充実など、校内体制を整備し特別支援教育に組織的に取り組む。アダプティブルーム試行校として、学習ソフトを活用した学習支援に取り組み、取り出し授業など、個に応じた支援の在り方について研修を深める。
担当 特別支援教育推進委員会	
児童生徒指導	長期休業後の教育相談をより徹底し、生徒理解と信頼関係に努める。毎月末の生活調査についてはより充実させ生徒指導に活用する。不登校生徒への社会的自立に向けた支援を充実するため、学習ソフトを活用した学習支援に取り組む。
担当 生徒指導部	
地域連携・学校運営協議会	地域行事への参加、をより積極的に行い交流を深める。学校地域コーディネータの配置について、予定していたコーディネーターが活動できなくなってしまったため、後任の適任者の配置を行う。
担当 教務部・生徒指導部	
担当	
いじめへの対応	毎月の学校生活アンケートの確実な実施を継続するとともに、日々の生徒の見取りを大切にする。また、積極的に関係諸機関との連携を行う。毎月はいじめ防止対策推進委員会を定着させるとともに、日々の教育活動におけるいじめを許さない風土づくりを推進する。
担当 いじめ防止対策推進委員会	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	学校運営において、人材育成を念頭に置いた配置を行う。また、学年運営においてもこれを意識してOJTでの人材育成をより推進する。業務の効率性を積極的に評価する。これを通して時間外勤務についてその縮減に向けてさらなる意識改革を行う。業務の効率化を図るためグループウェアの導入の検討を行う。
担当 教務部・管理職	